

# 仙台沿岸エリア

仙台市・塩竈市・名取市・多賀城市  
岩沼市・亶理町・山元町・松島町  
七ヶ浜町・利府町



仙台塩釜港、石巻港、松島港の3港が統合し、夢メッセみやぎの復旧や新インフラの供用開始など、復興に向けた取り組みが進んだ仙台塩釜港周辺

宮城県のほぼ中央に位置する仙台エリアのうち、沿岸部の市町は、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亶理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町の5市5町です。死者・行方不明者数は3,000人を超え、全国の市町村の中で最も住家被害が多かった仙台市を含め160,000棟以上の住家が全半壊する深刻な被害を受けました。

各市町では、地域住民との意見交換を重ねながら、被災市街地復興土地区画整理事業や防災集団移転促進事業、災害公営住宅の建設などの復興まちづくりに取り組んでいます。進ちょくの早い一部の市町では、4月に災害公営住宅の入居が始まります。また、津波被害を受けた農業では、従来の水稲やイチゴなどの園芸に加え、新たな手法の導入や作物の生産も見られています。松島周辺など壊滅的な被害を免れた地域では、観光業の回復の兆しが見られ、4月から始まる仙台・宮城アスティネーションキャンペーンでは、来県する観光客数の回復が期待されます。



災害公営住宅建設の様子(山元町)



市街地再開発を目指す市中心部(塩竈市)



地域の復興状況(仙台沿岸エリア)

## 仙台沿岸エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	3,353人	10,427人
行方不明者	100人	1,302人
全壊	41,500棟	85,259棟
半壊	124,697棟	152,875棟

(平成25年2月28日現在)

## 応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成25年3月
プレハブ住宅	14,429人	12,329人
民間賃貸借上住宅	37,108人	30,631人
計	51,537人	42,960人

(平成25年3月1日現在)



日和山から眺めた2年目の開上の様子(名取市)

この記事は宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」から抜粋しました。内容や表現は取材当時のものです。詳しくは <http://kokoropress.blogspot.com/>



2012年5月20日 日曜日

## 「伊達の気概を発信し、感動と再生へ心ひとつに」 第28回仙台・青葉まつり開催

(仙台市青葉区)

燃えるようなケヤキの緑が蒼天の空を仰ぐ5月。仙台・青葉まつりが2年ぶりに開催されました。来場者数は過去最大の95万人。400年前の慶長三陸地震に際し、伊達政宗公は、多大な被害を受けながらも、物怖じすることなく不屈の精神で2年後に慶長遣欧使節の派遣を実現させたことに、思いをはせました。



2012年7月27日 金曜日

## ありがとう 七ヶ浜・海まつり

(七ヶ浜町葛蒲田浜)

歴史と多くの思い出が詰まった七ヶ浜町の海岸の白砂をよみがえらせるために海岸清掃活動に取り組んでいるボランティアの皆さんに対する感謝も込めて、3日間だけの海開きが催されました。



2012年12月19日 水曜日

## 全国1位を奪還へ 「カネコ橋沼」ほか塩釜ブランドの奮起

(塩竈市)



旧工場跡地に建設された新工場

長年かまぼこの生産で全国一を誇っていた塩竈市。震災で事業者が壊滅的な被害を受け、平成23年は7位に転落してしまいました。生産体制を立て直し、失われた販路を取り戻すために奮闘する事業者の1人「カネコ橋沼商店」の橋沼幸造社長。塩竈市の水産加工業者のこれからの奮起に大いに注目していきたいものです。



2012年12月20日 木曜日

## 新たなモノづくりの拠点へ みやぎ復興パーク

(多賀城市桜木)

2011年12月に開設された多賀城市の「みやぎ復興パーク」で12月20日、1年遅れの開所式が行われ、入居する一部の企業・団体の事業が公開されました。「次世代移動体システム研究会」を組織する東北大学未来科学技術共同研究センターをはじめとして、新しい

産業の創造に対する取り組みに期待が集まっています。



村井知事らを乗せた電気バスは、東北大学の青葉山新キャンパスで実証実験が予定されています

2013年1月23日 水曜日

## 大学の力を、復興の力に

(仙台市)



「復興の担い手として大学などの高等教育機関ができることは何か」。宮城県内の大学や高専、市民、企業、行政などが相互に関係を結んだ「学都仙台コンソーシアム」の参加者らが、東北の復興のために一丸となって取り組もうと、「復興大学」が誕生しました。

2013年1月23日 水曜日

## 「覚悟」が意味するもの 復興市街地再開発が始動

(塩竈市)

塩竈市中心部で、震災後の市街地再開発事業が動き出しています。市内で最も栄えてきた商店街の1つ海岸通商店街は、復興交付金事業に手を挙げ、数十回に及ぶ勉強会などを通して「海岸通1番2番地区再開発準備組合」を立ち上げました。



2012年12月25日 火曜日

## イチゴの町、YAMAMOTOへ

(山元町山寺)



IT技術で山元町のイチゴ栽培の復興を目指す、農業生産法人株式会社GRA。その研究農場では、温度、湿度、日射量、二酸化炭素量などが栽培に適した値となるようにコントロールされています。そしてその技術を支えるのが、山元町で昔からイチゴの栽培に携わってきた農家の知恵とノウハウです。



GRA 代表取締役の岩佐大輝さん



2013年1月10日 木曜日

## 未来に誇れるまちづくりを 県内初の防災集団移転促進事業

(岩沼市)



成する「玉浦西」(約200戸)などに移転する事業で、2012年8月に着工しました。

岩沼市では全被災地の先陣を切って、防災集団移転促進事業が始まっています。沿岸6地区住民が新たに造成する「玉浦西」(約200戸)などに移転する事業で、2012年8月に着工しました。

全体計画に当たった「まちづくり検討委員会」には移転住民や移転先周辺住民にも参加し、合意形成を図ってきました。今後、公共施設の整備方針などをまとめ、詳細設計の段階に入ります。



2012年10月29日 月曜日

## 水耕栽培「さんいちファーム」が新しい農業を先取り

(名取市植松)



菜の水耕栽培が始まっています。土で育てる場合より成長が速く、年間に7、8回は収穫

2012年6月、名取市植松の塩害を受けた水田に2000平方メートルのハウス3棟が建設され、本格的な葉物野菜の水耕栽培が始まっています。土で育てる場合より成長が速く、年間に7、8回は収穫

が可能な上、完全無農薬栽培。品質と納期で安定供給が見込まれています。地元はもとより、県外やインターネットでの個人向け通販などさまざまな販路を築き、安定した収益を目指す地域の新しい農業として期待されています。



代表取締役の瀬戸誠一さん

2012年7月1日 日曜日

### 浦戸のりフェスティバル

(塩竈市浦戸)




松島湾に浮かぶ浦戸諸島は、ノリの名産地。「復興のきっかけもノリから」と、たくさんの人たちの頑張りです。「塩竈浦戸のりフェスティバル」が実現しました。

2012年7月23日 月曜日

### 記憶の防波堤

(名取市関上)



関上中学校の前に「関上の記憶」というパネルの貼られたプレハブの建物があります。中には慰霊碑を守る社務所や記帳所、カフェのほか関上に関するさまざまな資料が整然と並んでいます。NPO法人「地球のステージ」が運営しています。

2012年6月4日 月曜日

### 復活、魚市場！

(名取市関上)




冬の吹きさらしに耐えて競りや作業をしてきた関上の漁業者の皆さんにとって、念願の仮設関上魚市場が完成しました。


2012年12月8日 土曜日

### 震災で地域FM局が果たした役割

(多賀城市、塩竈市)



塩竈市にあるコミュニティFM局「バイウーブ」。阪神・淡路大震災の教訓から設立されたこの局は津波被害で放送ができなくなったものの、2日目は塩竈市役所に仮設スタジオを設け、「臨時災害FM局」として情報発信を続けました。今、当時の振り返りが行われています。




多賀城・七ヶ浜まちづくり推進協議会の皆さん。中央が「バイウーブ」専務取締役の横田善光さん。

2012年12月22日 土曜日

### 原発避難者も一緒 「うつくしま福島交流会」初開催

(岩沼市)




「みなし仮設住宅」の入居者への日常生活の支援が本格化している岩沼市で、2012年12月22日、福島県からの避難者を対象にした交流会が初めて開催されました。「笑顔が出るようお手伝いしたい」とスタッフが話していたように、粋な計らいが随所に見られる催しとなりました。

2012年9月8日 土曜日

### 災害に備えよう！街の真ん中で被災したら

(仙台市宮城野区榴岡)


防災の日でもある9月1日と8日に、仙台市中央市民センターで防災講座が開催されました。過去の事例から学んだ教訓や東日本大震災から72時間を振り返るワークショップなどをとおして、備えの大切さを再認識しました。



2012年9月25日 火曜日

### 一店逸品運動

(亶理町、山元町)




震災以降、商店街の売上が下がっている亶理町と山元町。お店それぞれの特色を発信することで商店街の活性化につなげていこうと、亶理山元商工会が「一店逸品運動」をスタートしました。飲食店をはじめ、美容室や洋服店、自動車整備工場など幅広いジャンルのお店が登録されています。

2012年10月4日 木曜日

### 東北ろっけんパーク TRY6 チャレンジショップ

(仙台市青葉区)



仙台市青葉区のクリスロード商店街にある「東北ろっけんパーク」。仙台市中心部商店街の復興と東北の観光や産業の復興をバックアップすることを目的とし、2012年5月にオープンしました。その2階にある「TRY6 チャレンジショップ」と、「TRY6 チャレンジボックス」では、6店舗が営業中。約1坪と小さな店のディスプレイには、出店者の工夫と個性が見られます。

2013年1月5日 土曜日

### 夢をかなえる第一歩 ～ドリプラ☆東北魂 2013～

(仙台市)



「夢を見ることに資格はいらない」がテーマの「ドリムプラン・プレゼンテーション☆東北魂 2013」。震災にも負けずに前に進む子供たちの夢、そして未来ある子どもを思う大人たち。その思いに触れようと会場には多くの人々が集まりました。

2012年11月14日 水曜日

### 「新たな食文化を生み出そう！」支倉常長遣欧使節400周年 仙台地域農工商連携促進セミナー

(仙台市)



支倉常長について講演する市博物館の佐々木徹さん



日本民俗学会評議員の佐藤敬悦さん、テーマは「藩政期の仙台の食と南蛮料理」

2013年4月から6月にかけて実施される観光キャンペーン「仙台・宮城アスティーナーションキャンペーン」。仙台藩の慶長遣欧使節400周年に当たる今年、農工商連携の視点と絡めて盛り上げようという勉強会が開かれました。

2012年10月31日 水曜日

### 名取交流センターがコミュニティを取り戻す試み

(仙台市、名取市)




名取交流センターが名取と仙台の両市内で開催している、被災者交流会「お茶っこのみでとまち」。その様子を拝見するために名取市の小塚原南集会所を訪問しました。その日はちょうど、芋煮会の日で、ばらばらになった地域の人たちが再開する場になっていました。

2012年10月27日 土曜日

### イチゴ産地の未来のために

(山元町浅生原)



山元町で、自ら被災しながらもイチゴで再起を図る若い3人がいます。その3人が設立したのが、株式会社一莓一笑。震災前の生産量に戻るにはまだまだ時間がかかるとのことでしたが、年末にはハウスいっぱいイチゴの実がなり、年明けには食卓に上りそうです。

2012年12月12日 水曜日

### まちの復興と活気を創出 塩竈市シャッターオープン・プラス事業

(塩竈市)




中心市街地に活気を呼び戻しまちを復興するために、空き店舗の1階部分を活用してもらおうと塩竈市が募集する「シャッターオープン・プラス事業」。震災後にこの制度を利用して事業を始めた2つのお店を取材しました。

2013年2月15日 金曜日

### 2年ぶりに会えた、「夢みる乙女」

(亶理町)




亶理町の特産であるイチゴを原料に作られたワイン、「夢みる乙女」が2年ぶりに販売を再開し、大好評です。「2年造らなかつたらファンの皆さんに忘れられてしまう」亶理町小売酒販協議会会長の大堀清さんはじめ関係者の「復活を諦めきれない気持ち」が、発売までの困難な道のりを切り開いたのです。

2012年12月4日 火曜日

### ビールと豆腐の幸福な出会い～「復興！七ヶ浜産大豆収穫祭」

(七ヶ浜町)




津波で町内のほぼ100%の農地が津波に流された七ヶ浜町。「このままではいけない！」と9人の生産者が農業復活に立ち上がりました。その熱意に、「食に関わる企業として、東北の農業の復興を応援したい」というキリンビールの支援プロジェクトがトラクターなどの農業機械を提供、4.8ヘクタールの大豆栽培が実現しました。収穫祭では、採れたての大豆で作られたおいしい豆腐料理を前に、乾杯の歓声が何度も湧き上がりました。


2012年10月26日 金曜日

### 全壊消失から再建へ 笹かま「ささ圭」が新工場で大規模稼働

(名取市植松)



震災で事務所や工場が壊滅的な打撃を受けながら、果敢に再建を果たす企業が増えています。今回は、その中の水産加工業者に注目。昭和41年の創業以来、名取市関上で笹かまぼこなどを作り続けてきた「ささ圭」を訪ねました。




佐々木亮社長


2012年12月12日 水曜日

### まちの復興と活気を創出 塩竈市シャッターオープン・プラス事業

(塩竈市)



アンテナショップと「まちの駅」の機能を持つ「しおがま・まちの駅」




6月にオープンした花店

2013年2月3日 日曜日

### 松島復興かき祭り

(松島町)




今年で35回目を迎える「松島かき祭り」。震災、異常気象などによって開催に至るまでにたくさんの苦労がありました。しかし、歴史のあるこの祭りを毎年待ち望んでいる全国の方々が足を運び、会場の松島海岸駅前の広場は多くの人でにぎわいました。

横浜からいらした鈴木さん一家

2013年1月17日 木曜日

### 研究成果から復興へ 産学官連携フェア・東北大学イノベーションフェア開催

(仙台市)



被災地から発信されるシーズ（研究成果）が社会のニーズに見合うことで、復興は加速されます。1月17日に仙台国際センターで、「産学官連携フェア2013winter みやぎ」、「産学官交流大会」、「東北大学イノベーションフェア」が、共同開催され、東北の学術研究機関などの研究成果が幅広く披露されました。

2012年11月15日 木曜日

### 畳で被災地に癒しを

(利府町)




名だたるい草の産地、熊本県では「くまもと畳表復興支援事業」を実施し、東日本大震災で被災した施設に熊本県産畳表を提供して、安らぎをプレゼントしています。今日は支援先の利府町保健福祉センターで贈呈式が開催されました。

2012年12月13日 木曜日

### 仙台の生みそ「岡田産づくり」が復活！岡田生産組合

(仙台市宮城野区)




仙台市宮城野区岡田は近年、みその産地として知られるようになっていきましたが、津波で78人の犠牲者を出したばかりか、原料生産の大豆畑や加工施設も流されてしまいました。それでも、震災直後から復活を誓って再建に取り組み、このほど出荷を再開。喜びの声をお聞きしました。


2013年1月12日 土曜日

### 目指せ陸田復活！岩沼白菜収穫ツアー

(岩沼市)



昔から岩沼の地に根付いてきた白菜。一度は途絶えたものの震災を機に復活しようとしています。津波によって地下水が塩水化したことにより稲の作付けができなくなった田んぼに、塩害に強い白菜を植えたのです。この日は、栽培を支援した東京のNPO法人「農工商連携サポートセンター」の「岩沼白菜/農地復興ツアー」。収穫を待つ間に養分をたっぷり蓄えた白菜が目の前いっぱいに広がる景色に、ボランティアの方たちもとても喜んでいました。



「つみきめっと」を開発した東北工業大学の梅田弘樹准教授

2013年1月17日 木曜日

### 研究成果から復興へ 産学官連携フェア・東北大学イノベーションフェア開催

(仙台市)



東北大学、吉田和哉教授による極限ロボティクスに関する実演



「つみきめっと」を開発した東北工業大学の梅田弘樹准教授